

米国チャータースクールは授業料無料の学習塾・予備校そのもの

—米国チャータースクール視察団に参加して—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：林先生にとってチャータースクールとは何でしたか。

A：(林明夫：以下省略)公立、つまり授業料無料の学習塾・予備校そのものと私は思いました。

Q：どういうことですか。

A：例えば、カリフォルニア州で18万人が学ぶ510のチャータースクールには、生徒1人当たり7,000ドルが州から与えられますので、普通の公立学校と同様、生徒の授業料は無料です。しかし、どのように先生を採用・研修・評価をしながら、どのようなカリキュラムで、どのように教えるかは一切チャータースクールの自由裁量です(特定の宗教教育をすることは認められません)。

Q：各校ともそれぞれ特徴を持っているようですね。

A：芸術やスポーツ、環境教育などを中心にカリキュラムを組むチャータースクールもあるようですが、「学力向上」を目的とするのが大半のチャータースクールであるようです。

大学の先生がチャータースクールに来て授業をし、単位が認定されればチャータースクールでの単位が進学先の大学の単位として認定され、その課目は大学入学後に履修しなくともよいチャータースクールも少なくないようです。

Q：それは素晴らしいことですね。

A：はい。チャータースクールで学んだことが大学の単位として認定されれば、大学で直接専門科目を学ぶことができますので、時間短縮となります。何よりも、高校生の長所ややる気、もてる能力を引き伸ばす素晴らしい教育システムであると私も考えます。高校と大学とのよりよい接続を考える最近の「接続教育」の上でも素晴らしい教育システムだと思います。

Q：教師の採用・研修・評価についても学習塾や予備校と似ているとのことですが。

A：はい。教員資格をおもちの方を中心にして、おもちでなくともチャータースクールが相当と判断した人は、各校で自由に教師として採用できるようです。

研修も教育の質を維持し、高めようと非常に熱心です。週1回授業時間を2時間遅らせて、先生

方の教え方を向上させるためのワーク・ショップを実施している学校もあるようです。もちろんよい業績を残した先生は評価する。しかしチャータースクール全体の業績が上がらず、5年に1回のチャーター(学校免許)の更新が教育委員会から認められない場合は、閉鎖と同時に先生も職を失う。これも、学習塾や予備校と同じで厳しいものがあります。

Q：最後に一言どうぞ。

A：実は、OECD の PISA(学力到達度調査)で世界一の学力と評価の高いフィンランドも、教師のきめ細やかさでは学習塾・予備校と同じように私には思えました。学習塾・予備校の教育システムは日本が世界に誇れるソフト・パワーであると確信します。次は世界一の高学力の国、フィンランドに皆様と訪問できたらと希望します。

— 2005年5月26日林明夫記—